

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道小樽未来創造高等学校	教育局	後志教育局
-------	---------------	-----	-------

1 研究主題	
地域観光の活性化 ～ホンモノの小樽にふれあう～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
2月	・学校設定科目「観光一般」の授業において、2年次流通マネジメント科36名、情報会計マネジメント科38名の生徒を対象に、小樽観光大学の総務部長を外部講師として「おたる案内人検定」の講演会を実施した。
3 地域みらい連携会議の開催内容	
第1～3回	
出席者	
協議内容	
指導・助言を受けた内容	地域みらい連携会議を開催するにあたり、新型コロナウイルスの感染症の拡大防止の観点から、高齢者の構成員にも配慮し、今年度の連携会議の開催を見合わせた。
第 回	
出席者	
協議内容	
指導・助言を受けた内容	
第 回	
出席者	
協議内容	
指導・助言を受けた内容	

4 研究の成果と課題**(1) 目的の達成状況**

- 生徒が地元の外部団体が主催する「おたる案内人検定」を自主的に受験を希望するなど、実践研究の活動の経験を通して、地元産業活性化に対する意識を高めることができた。

(2) 目標の達成状況

- 科目「観光一般」の授業を通して、小樽の観光産業の基盤ともいえるべき歴史的建造物である国指定重要文化財や小樽市指定歴史的建造物などの文化的財産の価値だけでなく、北海道の経済的発展の礎となった小樽の歴史的背景などを学ぶことにより、地域社会における観光産業の役割を正しく理解し、地方創生に必要な資質・能力を身に付けることができた。
- 小樽の歴史や文化など幅広い知識を身に付けるため、日本遺産や地域のイベントなどを題材とした授業を通じて、生徒自らが「おたる案内人検定」を取得し、「小樽観光のプランニング」や「旧手宮線のPR動画」を作成したいなどの積極的な意見が出るようになった。「おたる案内人検定を取得し、卒業後の進路活動に生かしたいか」という設問では、肯定的な意見が授業前の約50%から、95%に向上した。

(3) 実践研究の規模

- 2年次を中心とした活動であったため、他年次・他学科との効果的な連携を図るなど、学科・年次・教科の枠を超えた全校体制を構築する必要がある。

(4) 研究成果の普及

- 活動内容を、学校のウェブページや北海道新聞、地元情報誌(小樽ジャーナルなど)を通じて、広く地域に発信していく必要がある。

(5) 実践研究内容

- 1月に実施した「おたる案内人」に関する講演では、日本・北海道の経済発展に小樽が関連した歴史的背景などを学び、「小樽に対して以前より興味関心を持った」と回答した生徒が95%を超えた。

(6) 地域みらい連携会議

- 会議の開催に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から実施しなかったが、次年度以降も会議の形態を工夫しつつ、積極的に地域の有識者の意見やアドバイスを取り入れていく必要がある。

5 プロジェクトの達成状況

(1) 【評価の観点】 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

学科全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

- ・科目「観光一般」で学んだ小樽の歴史的価値に対する知識や理解が一定のレベルで身に付いたと生徒が実感できたことが生徒の自信につながったため。
- ・3月に実施予定の「おたる案内人検定」に向けて、授業時間に留まらず、自発的に学習する生徒が増加したため。

(2) 【評価の観点】 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

- ・小樽観光大学校などの外部団体と連携、協力体制を構築することができたため。

(3) 【評価の観点】 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

- ・2年次による取組であったことから、次年度の進路選択や社会人としての地域貢献などの視点から主体的に考えることができるようになったため。

(4) 【評価の観点】 地域課題の解決状況について

(評価)

地域課題を把握し、取り組んだだけに留まっている。

(理由)

- ・今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、積極的な校外活動に取り組むことが困難であった。そのため、地域の歴史的な背景などの学習に重点を置いた活動となり、実践的な取組は次年度以降となったため。

6 今後の取組

- ・本校の取組を地元地域における効果的な活動とつなげていくため、より実践的な活動環境や連携体制を構築する。
- ・「おたる案内人」のボランティア団体と連携し、本校生徒が実際に観光ガイドを体験学習するなど、実践経験の機会を確保する。
- ・小樽市民全体で観光客をおもてなしする「小樽観光都市宣言」の実現に向けて、日本遺産や小樽遺産、歴史的建造物などの歴史的価値を正しく知ってもらうために、小中学校などを対象とした出前授業や広報活動などを行えるように取組の充実を図る。

7 参考資料

- 「おたる案内人講演」の様子



小樽観光大学の講師を招いて「おたる案内人検定」の講演を実施した。

